

「大学評価担当者集会2012」に係る実施報告

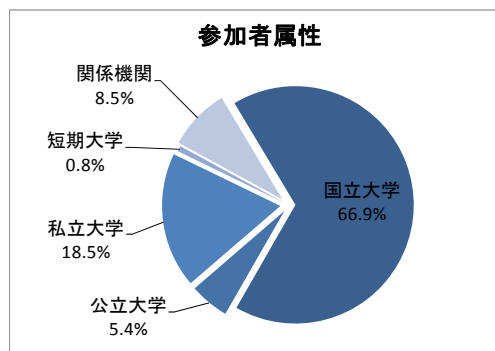
平成24年9月6日(木)～7日(金)の両日にわたって、大学評価コンソーシアム主催、国立大学法人神戸大学共催による「大学評価担当者集会2012」を神戸大学六甲台第二キャンパスにおいて開催しました。

【会場】

- ・ 神戸大学百年記念館
- ・ 瀧川記念学術交流会館

【参加者数】

130名（参加登録者数：133名）



国公立大学の教職員、及び民間企業を含む大学関係機関から総勢130名にご参加いただき、大学評価及び Institutional Research (IR) に係る内容を中心に、以下の講義及び研修を実施しました。

9月6日(木) 13:30～

○第一分科会「評価とIR：データ分析編」 参加者数：80名

担当：嶋田敏行（茨城大学）、浅野昭人（立命館大学）、浅野茂（神戸大学）、大野賢一（鳥取大学）、佐藤仁（福岡大学）、

大学評価業務に一定期間携わっている（あるいは過去に携わった）方を対象に、昨年度の「データ収集編」の成果を踏まえ、参加者の所属機関において大学の諸活動の改善を促進し、評価業務の高度化を図るための相互討論を行いました。具体的には、事前に作成した架空の大学の目標及び計画を基に、計画の進捗状況の分析を行い、記載内容の不備、分析における矛盾点や改善点等について、13の班でグループ討議を行っていただきました。その結果をポスターにまとめたいただこうえ、目標・計画ごとに各班が作成したポスターの概要及び分析結果を紹介していただき、計画の進捗状況を記載するうえでの「勘どころ」及び分析における留意点等を共有しました。



○第二分科会「初めて評価を担当される方へ」 参加者数：27名

担当：小湊卓夫（九州大学）、関隆宏（新潟大学）

大学評価の実務経験がほとんど無い初心者を対象に、「評価とは何か」という基本的な観点の習得を目標に、参加者の所属機関で自己評価書を作成する際に求められる着眼点・発想法・留意点を身につけるための講習及び演習を行いました。評価に係る基本的な観点についての講義の後に、事前に作成した架空の大学の目標及び計画に基づいて、6つの班でグループ討議を行い、自己評価書を作成する際のポイント等を受講者と共有しました。



○第三分科会「自己評価能力を高めるための目的・計画と指標の作り方」 参加者数：26名

担当：田中弥生（大学評価・学位授与機構）、浅野茂（神戸大学）

大学評価の経験が長い方及び企画立案業務に携わっている方を対象に、効果的な目的及び計画の策定、目的や計画の進捗を把握するための指標設定に関する講義及び演習を行いました。具体的には、目的や計画の妥当性や実行可能性、根拠データの所在をチェックし、整えることによって、適切な評価が行えるように整理するための手法（Evaluability Assessment）について学びました。そして事前に作成した架空の大学事例に基づいて、4つの班に分かれ、問題を分析し、そこから、どう目的と計画を導いてゆくのかについて理解を図りました。



※全体総括

各分科会における実施内容及び議論になったポイント等を全体で共有しました。そのうえで、大学評価コンソーシアム発足時のスローガンである「評価を評価で終わらせない」、「元気の出る評価」といったことを実践する際に想定される課題・障壁、それを打破していくために評価担当者

としてどのような支援が可能なのかについて、全体討議を行いました。



■大学評価コンソーシアム総会（18：00～18：30）

全体会終了後には、今後の活動方針をまとめた行動計画、会則案を会員のみなさまにお諮りする
ため、「大学評価コンソーシアム総会」を開催しました。事務局から提示させていただいた行動計
画及び会則案について、ご了承いただいたことを受け、会則に則り、幹事の選任、さらには代表
幹事、副代表幹事、監査人を選任しました。選任者及び役職は以下のとおりです。

・幹事（10名）

浅野 昭人（立命館大学 学生部 次長）

○浅野 茂（神戸大学 企画評価室 准教授）

大川 一毅（岩手大学 評価室 准教授）

大野 賢一（鳥取大学 大学評価室 准教授）

小林 裕美（大分大学 国際交流課 課長）

◎小湊 卓夫（九州大学 基幹教育院 准教授）

佐藤 仁（福岡大学 人文学部 講師）

○嶋田 敏行（茨城大学 評価室 助教）

関 隆宏（新潟大学 企画戦略本部評価センター 准教授）

難波 輝吉（名城大学 薬学部・大学院薬学研究科事務室 事務長）

◎は代表幹事、○は副代表幹事。

・監査人

田中 弥生（大学評価・学位授与機構 研究開発部 准教授）

◇情報交換会（18：30～20：30）

総会終了後は、55名の方の参加を得て情報交換会を催しました。ネットワーク作りの場として
のみならず、それぞれの業務に係る情報交換、分科会で議論し尽くせなかったこと等、終始会話
が途切れることなく、終了時間を迎えました。

9月7日(金) 13：00～16：00

◎「エンロールメント・マネジメントに関する勉強会」 参加者数：46名

司会： 浅野茂（神戸大学）

講演： 鳶田敏行（茨城大学）

澤登秀雄（創価大学入試事務室課長）

神立孝一（創価大学経済学部学部長）

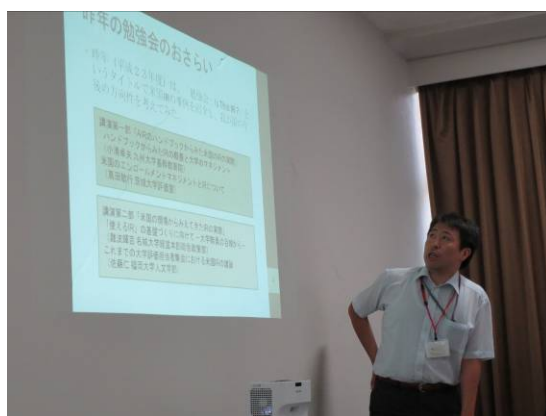
福島真司（山形大学エンロールメント・マネジメント部教授）

モデレータ： 小湊卓夫（九州大学）

会場担当： 大野賢一（鳥取大学）、小林裕美（大分大学）、佐藤仁（福岡大学）、関隆宏（新潟大学）

米国の大学における IR 部門の主要業務であり、最も強みを発揮しているとされるエンロールメント・マネジメントに関する講義及び事例紹介を行いました。理論的な整理に加え、実践的な取り組みとして、日本の大学においてエンロールメント・マネジメントを先進的に推進されている創価大学及び国立大学法人山形大学の事例をご報告いただき、学生の入学から卒業までの様々な諸状況を把握し、学生の学びを促進するための対応を行う担当者がどのように課題を見つけ、解決してきたのかという経験を中心にご紹介いただきました。

講演終了後には、参加者に記入いただいた質問票を中心に、十分な時間を確保して質疑応答を行い、エンロールメント・マネジメントは「学生を知る」ための手段として有効であることが確認されました。





※ 大学評価担当者集会2012の会場及び実施風景

